

行政視察報告書

委員会名	総務委員会
派遣委員	委員長 伊藤 淳 副委員長 大塚 州章 委員 戸匹 映二 委員 匹田 郁 委員 梅田 徳男
日 程	令和5年10月12日(木)
視 察 先	茨城県取手市
調査項目	バスロケーションシステムについて

1. 調査目的

白杵市では、今年度中に「バスロケーションシステム（バス位置情報検索システム）」の導入を予定していることから、先進地である茨城県取手市を行政視察先としました。

取手市では、バス利用者が抱える「バスがいつ来るのか」「どこに行くのか」「いくら掛かるか」といった不安を軽減し、より気軽に利用してもらうために、バスロケーションシステムを導入しています。このシステムは、GPS機能とインターネットを活用し、スマートフォンなどの携帯端末やパソコンで、走行中のバスの位置やバス停到着予定時間などの情報を利用者に提供するサービスです。今後、導入予定の白杵市においても、このサービスをより良く活かせるようにするため、調査・研究を行いました。

2. 調査内容

(1) 視察先の概要

取手市は茨城県の南端に位置し、首都圏近郊整備地帯の特定市で、東京都心部から約40km圏内にあります。人口約10万5千人、面積約70平方キロメートル、高齢化率は34.7%。利根川とその支流の二大河川に囲まれ、水と緑に囲まれた地域で、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境を持ち、東京のベッドタウンとして発展してきたとのことでした。

(2) 調査結果

取手市では、高齢化が年々深刻化し、公共交通事業の担い手不足に加え、鉄道や路線バスが走っていない地域が存在すること、一般財源のみに頼るコミュニティバスの運営などが交通施策の課題となっていました。その対応策として、「高齢者などの運賃割引」、「バスロケーションシステム」、「交通系ICカード決済システムの導入」、「ゴルフカートを改造した電動グリーンスローモビリティの実証調査」などに取り組まれています。

取手市での「バスロケーションシステム」は、平成27年に導入。目的は、乗り換え負担の軽減、運行状況がスマホなどの携帯端末で確認できることによる利用者の利便性向上、運行事業者と市の担当課で運行状況をリアルタイムに把握するためであったとのことでした。

導入後の効果としては、市民からの「バスが今どこを走っているのか」、「あと何分でバス停に到着するのか」といった問合せに対して、バスに装着したGPSの位置情報により、運

行事業者だけでなく、市の担当課においても対応可能となったことや、事故などによる運休や遅延が発生した際においても、緊急のお知らせを利用者に周知できるようになったことなどがあげられるとのことでした。

また一方で、利用者があまり多くないこと、特に高齢者には扱いが難しいとの課題が明らかになり、スマホの使い方教室の開催や、電話での問合せ対応を行っているとのことでした。

3. 委員会の所感

白杵市においても、今年度中に「バスロケーションシステム」の導入が予定されていますが、高齢化率40%を超える本市においても、高齢者などのシステム利用が困難な市民への対応方法について、十分に留意する必要があるものと思いました。

4. 視察状況

